

第6学年2組 体育科学習指導案

指導者

- 1. 単元名 「跳び箱」
- 2. 単元目標

知識・技能	○ 助走から両足で踏み切り、腰の位置を高くして、着手し、前方に回転しながら体を開いて着地できる。 ○ 助走から両足で強く踏み切り、腰を大きく開くとともに、膝を伸ばした姿勢で着手し、回転して着地できる。
思考・判断・表現	○ 自分の課題に応じて、技や練習の場・段階を選ぶことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 台上前転を大きな動きとすることに、進んで取り組もうとしている。 ○ 器械・器具の安全に気を配り、約束を守り友達と助け合っ、技の練習をしようとしている。

- 3. 学習指導計画（2時間目／全6時間）
 - (1) 学習のめあてと見通しをもつ（1時間）
 - (2) 大きな台上前転（本時1／2）（2時間）
 - (3) 首はね跳び・頭はね跳び（2時間）
 - (4) 学びのまとめ（1時間）

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、体を動かすことが好きな児童が多く、休み時間には必ず運動場で遊んでいる。また、事前アンケートでは「体育の学習は好き」と回答した児童が29人中20人、残りの9人は「どちらでもない」と回答しており、体育科の学習への意欲も高い。しかし、半数以上の児童が器械運動に対して苦手意識をもっており、前単元のマット運動では、上達しようとする意欲はあるが、自分の課題や上達のポイントを掴むことができず、どう練習したら技ができるようになるか分からない児童も9名いた。

そこで本単元では、児童一人一人が「できる」と思えるように児童自身が自分の課題に気付き、上達へのポイントを掴むことが必要であると考え、以下の手だてを講じることとする。

【手だて1】見通しをもたせるための工夫

- 児童一人一人が見通しをもてるようにするために、既習の学習の大きな前転や回転技を意識した導入を行う。既習の学習内容から本単元の学習へと繋げる方法を全体で振り返る。技の成功までの流れを、一人一人が確実に見通しをもてるようにする。

【手だて2】自らの課題を確認するためのICT機器の活用

- 児童が自らの学習課題やポイントに気付くことができるように、ICT機器を活用する。練習の場ごとにタブレットを使用できるようにし、児童同士が技の動画を撮り合えるようにする。動画を撮影し、見ることで、自らの課題に気付いたり、技のポイントを掴んだりできるようにする。また、タブレットの中に模範となる動画をインストールし、児童が自分の技と見比べることができるようにする。

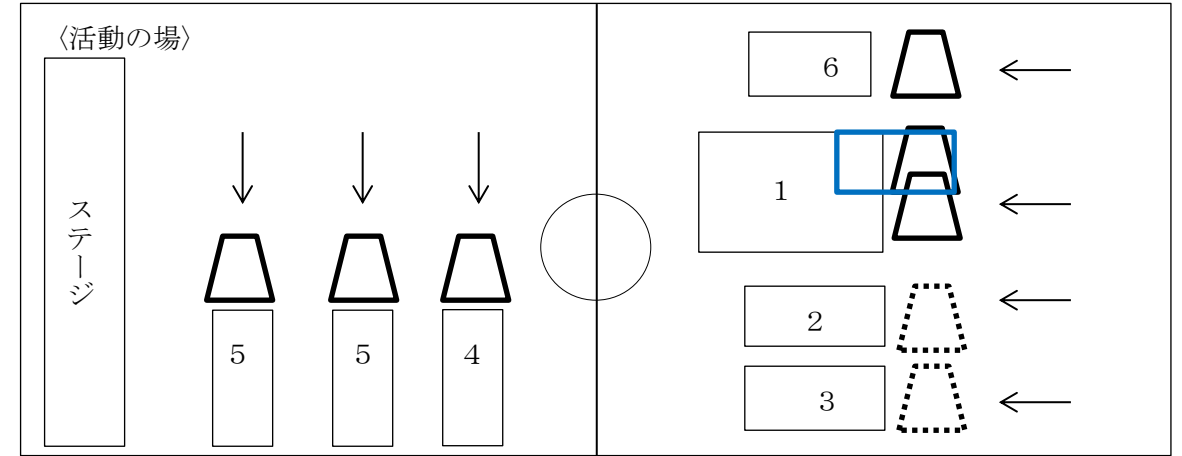
また、深める場面では、テレビで模範となる動画を提示し、技のポイントをはっきりと意識できるようにする。振り返る活動もICTを使い、児童がICT機器を活用しやすいようにする。

【手だて3】更なるステップアップのために、学びを振り返る工夫

- 本時の振り返りを全体で行い、各々の気付きや上手にできた時のポイントなどについて考え、話し合わせる。児童が「前は○○の場で練習してたけど、次の場でできるようになった」と達成感が味わえるように、個に応じた課題解決ができるよう、活動の場をスモールステップ化する。（別紙参照）。その後、まとめ・振り返りを児童個人で行い、自分の考えや学習を振り返っていく。このようにすることで、自分自身の学びや自己の変容、児童の思考から更なるステップアップができるようにする。

- 5. 本時の学習 令和3年 1月26日（火）
第2校時 於：体育館

- (1) 主眼 ICT機器を活用して自分の課題に気付き、自分に合った練習の場で練習することで、大きな台上前転ができるようにする。
- (2) 準備 跳び箱、マット、セーフティマット、肋木、踏切板、調整板、技カード、ICT機器
- (3) 展開



予備運動・オリエンテーション	活動①	深める	活動②	まとめ
<p>1. 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に気を付けさせ、協力して学習の準備をさせる。 ○ 準備運動をさせる。 <p>2. 予備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆりかご（体位感覚） ・カエルの足うち（体位感覚、腕支持感覚） ・前転（回転感覚・順次接触感覚） ・大きな前転（回転感覚・順次接触感覚） <p>3. 本時の問題を知り、めあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> めあて 大きな台上前転に挑戦しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の学習内容である台上前転の方法を全体で振り返ることで、本時の学習の大きな台上前転も取り組むことができそうだと見通しをもたせる。 ○ 「どのようなポイントに気を付ければ成功させられそうか」をグループ・全体で考え、児童全員が個人思考への見通しをもてるようにする。 	<p>4. 自らの課題に合わせて大きな台上前転を練習する。</p> <p>児童の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰が頭より上がらない ・足が曲がってしまう <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が自分に合った練習の場を選べるように、様々な場作りをする。 <p>（個人思考）</p> <p>技の流れやポイントを確認し、自分の課題に合った場の選択をする。</p>	<p>5. 自分たちの考えを深め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動①を通して、失敗したポイントや成功したポイントを発表させ、話し合う。 ○ 各々の体験談を言わせることで、全員のステップアップへと繋げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>技のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力強く踏み切り、腰を高く引き上げる ・着手 腰角を広げた脚の伸びを意識する ・順次接触 ・着地 </div>	<p>6. 活動①を踏まえて、自らの課題に合わせて大きな台上前転を練習する。</p> <p>（集団思考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットを活用して自分たちのできなかったポイントや上達へのポイントを話し合わせる。 	<p>7. 整理運動をする。</p> <p>8. 振り返り・まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ できたポイントや課題を基に、次時の学習を見通すことができるようにする。 ○ 本時の学びを個人でまとめ、振り返ることで、自己の課題に気付くことができるようにする。 ○ 児童の発言をもとに、全体で本時の学習の振り返りとまとめをする。 ○ 振り返りの際は、振り返りのポイントを提示する。 <p>9. 片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に気を付けさせ、協力して学習の片付けをさせる。
		<p>まとめ</p> <p>腰の高さや着手、着地に気を付けながら膝を伸ばすと、大きな台上前転ができる。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> ・連結跳び箱とセーフティマットの上に台上前転する場 →跳び箱の高さに対する恐怖心を無くす。 . . . 1 ・ソフト跳び箱で技の確認をする場 →跳び箱自体への恐怖心を無くす。（腰を高くするための段差あり） . . . 2 ・ソフト跳び箱で技の確認をする場 →跳び箱自体への恐怖心を無くす。 . . . 3 ・一連の流れを練習する場（6段・マット載せ） →マットがあることで、台上前転しやすくする。 . . . 4 ・一連の流れを練習する場（6段） . . . 5 ・肋木を使って、足の伸びを確認する場 →肋木の棒の位置と比較して足の高さを確認する。 . . . 6 		

0(分)

10

20

23

38

45(分)